

めぐみ在宅地域緩和ケア研究会



NEWS LETTER

2019.11 NO. 147

めぐみ在宅クリニック（在宅療養支援診療所）

〒246-0037 神奈川県横浜市瀬谷区橋戸2-4-3

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

自分ファーストではなく、誰かのことを考える人

持続可能な社会を目指すためにSDGsという言葉が聞かれるようになりました。もともとは国連がミレニアム開発目標として策定した内容を、2016年から2030年にむけて持続可能な開発目標として17ゴール、169ターゲットに、すべての国の目標とし、国連全加盟国に、実施手段も重視すること、そして「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」と謳われました。

高齢少子化多死時代を迎え、人口減少が始まっている日本は、別な意味で“持続可能”という言葉は、大きな意味を含むと考えます。そして、政府がまとめた、まち・ひと・しごと創生総合戦略（2017改訂版）にも、巻末にアクションプランが掲載されています。その中に紹介されている、地域包括ケアシステムの内容をみて、ちょっと（だいぶかな…）驚いてしまいました。必要な対応と、短期・中長期の工程表、さらには2020年KPI（成果目標）との乖離を感じたからです。

必要な対応に、「人生の最後まで」という言葉がありますが、その成果目標には、健康寿命を延ばすことしか触れられていなかったからです。「人生の最後」に触れています、名ばかりで、肝心なことから目を背けているように見えるのです。

どうしても解決できる問題にだけ注意が注がれ、人生の最後に関わる援助についての記載がないままでは、多くの国民が、尊厳が奪われた中で最後を迎えることでしょう。

とはいえ、日に日に弱っていき、やがてお迎えが来る人とその家族の援助について、どのように施策に取り入れるかは、行政としても言葉にしにくいことでしょう。

誰かを批判しているだけでは良い社会になるとは思えません。たとえ人生の最終段階を迎えた人とその家族であっても誠実に関われる担い手が地域が増えていくための活動を、地道に行っていこうと思います。

小澤竹俊

死の臨床研究会年次大会

2019年11月に神戸で死の臨床研究会年次大会が開催されました。全国から3000人を越える参加者がありました。めぐみ在宅クリニックで4人が参加し、学ぶ機会がありました。院長は、企画委員会のシンポジウム「真の援助者を目指して」の司会として登壇の機会がありました、死の臨床研究会の特徴は、豊富な事例検討の討論があることです。今年もさまざまな気づきがありました。大会運営にあたった実行委員の皆さま、本当にお疲れ様でした。

半日体験型緩和ケア研修の案内

めぐみ在宅クリニック研修室で、半日体験型緩和ケア研修を開催します。

日時：2019年12月14日（土）13:00-17:00
＜受付 12時30分～＞

場所：めぐみ在宅クリニック
横浜市瀬谷区橋戸2-4-3

講師：小澤竹俊（めぐみ在宅クリニック 院長）

参加費：無料

定員：50名を想定しています

事前申込：めぐみ在宅クリニック 小澤まで

メール：megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

診療実績

	2006- 2018年	2019年 1月-7月	8月	9月	10月	2019年 計	総計
訪問回数	70,753	6,136	875	836	855	8,702	79,455
自宅永眠	2,252	145	15	18	11	189	2,441
施設永眠	349	42	3	2	4	51	400
在宅 (自宅+施設)	2,601	187	18	20	15	240	2,841
病院永眠	711	49	3	7	9	68	779